

地域経済動向調査（平成30年4月版）

●調査目的

全国的な経済と地域経済の動向を調査することで、小規模事業者が置かれている環境を把握し、経営支援や事業計画策定の基礎資料として活用する。

●調査対象物

- ・ 中小企業景況調査（調査予定時期：8月、11月、1月、4月 年4回）
 - ・ 紀陽銀行の経済指標（調査予定時期：7月、10月、2月 年3回）
 - ・ 地域経済分析システム（調査予定時期：10月）
 - ・ 和歌山県観光客動態調査（調査予定時期：10月）
- ※調査予定時期は、前後することがあります。

●調査時期

本データは、平成30年3月時点の公表資料に基づいています。

●表の見方

前期と比較して

- ↗ 数値が2ポイント以上、良化したもの
- 数値が変わらないもの（2ポイント以内）
- ↘ 数値が2ポイント以上、悪化したもの

で表記しています。（対比している数値は、前月比や前年同月比等、項目により異なります。）

●調査主体

由良町商工会、日高町商工会、美浜町商工会、印南町商工会、みなべ町商工会

【用語解説】

●景気判断の基準と使用数値（D I：Diffusion Index）について

各質問事項を前期に比較して、

（A）良い（「増加」あるいは「上昇」）

（B）変わらず

（C）悪い（「減少」あるいは「下降」）

のいずれかに回答してもらい、（A）（B）（C）の回答割合（％）のうち、（A）－（C）の値（D I）を時系列に観察することにより景気を分析する方法です。

例えば、回答が以下のような場合のD Iの算出方法は、次のとおりです。

（例）「良い」の回答が50％、「変わらず」の回答が30％、「悪い」の回答が20％の場合

$$D I = 50「良い」 - 20「悪い」 = +30 \text{ となります。}$$

D Iは0を中心として100と▲100の間で変動するが、0を基準としてプラスの値は景況が上向き企業割合が多いことを示し、マイナス値は景況が下向き傾向の企業割合が多いことを示します。

なお、中小企業景況調査は、中小企業を対象として業況感を確認しており、大企業のD Iと比較して低くなり、マイナス値となることが多い。

本レポートでは、プラス値を「晴れ」、▲20ポイント以上を「雨」、0～▲19.9ポイントまでを「曇り」として表現した。

1. 全国的な中小企業の業況判断

概況	業況判断は一服間もあるが、緩やかな回復基調にある。
----	---------------------------

業況判断 DI(全産業)	H29/4-6 月		H29/7-9 月		H29/10-12 月		H30/1-3 月	
		↗		→		→		→
	▲14.3		▲14.8		▲14.4		▲13.9	

全産業の業況判断DIは▲13.9であった。前期比較し0.5ポイント改善し、業況判断は僅かながらも回復した。

売上額 DI(全産業)	H29/4-6 月		H29/7-9 月		H29/10-12 月		H30/1-3 月	
		→		→		→		→
	▲13.1		▲14.2		▲12.5		▲13.2	

全産業の売上額DIは、前期▲12.5→▲13.2(前期差 0.7ポイント増)とやや悪化した。

採算性 経常利益 DI(全産業)	H29/4-6 月		H29/7-9 月		H29/10-12 月		H30/1-3 月	
		↗		→		→		↘
	▲18.8		▲19.2		▲20.3		▲23.6	

全産業の採算(経常利益)DI(「好転」-「悪化」、前年同期比)は、前期▲20.3→▲23.6(前期差 2.6ポイント減)とマイナス幅が拡大する傾向にある。

資金繰り DI(全産業)	H29/4-6 月		H29/7-9 月		H29/10-12 月		H30/1-3 月	
		→		→		→		→
	▲11.4		▲11.3		▲11.4		▲11.8	

全産業の資金繰りDIは、前期▲11.4→▲11.8(前期差 0.4ポイント増)と僅かにマイナス幅が拡大した。

設備投資割合(全産業)	H29/4-6 月		H29/7-9 月		H29/10-12 月		H30/1-3 月	
		→		→		→		↘
	17.0%		18.2		18.0		15.2	

H30年1-3月期の設備投資割合は、15.2%(前期差 2.8ポイント)であり、やや後退した。

出所 中小企業景況調査(2018年1-3月期)

<http://www.chusho.meti.go.jp/koukai/chousa/keikyo/151keikyo/151sokuhou.pdf>

2. 和歌山県内の中小企業の業況判断

概況	<p>県内では非製造業の業況感が大きく回復し、 全国平均と比較しても中小企業の業況感はよい。</p>
----	--

全産業の業況判断 DI (和歌山)	H29/4-6 月		H29/7-9 月		H29/10-12 月		H30/1-3 月	
		↓		↑		↓		↓
	▲21.1		▲15.6		▲17.3		▲6.8	

県下では H30 年 1-3 月期の全産業の業況判断DIは、▲6.8(前期差 10.5 ポイント増)となり、マイナス幅が大きく回復した。全国の業況判断DI ▲13.9と比較すると、和歌山県の中小企業の景況感はよい。

製造業の業況判断 DI (和歌山)	H29/4-6 月		H29/7-9 月		H29/10-12 月		H30/1-3 月	
		↓		↓		↑		↓
	▲4.7		▲18.8		4.6		▲6.5	

H30 年 1-3 月期、県下の製造業の業況判断 DI は、▲6.5(前期差 11.1 ポイント減)である。ただし、全国平均の製造業の業況判断 DI▲10.1と比較すると、高い水準を維持している。

非製造業の業況判断 DI (和歌山)	H29/4-6 月		H29/7-9 月		H29/10-12 月		H30/1-3 月	
		↓		↑		↓		↑
	▲26.7		▲14.5		▲24.3		▲6.6	

H30 年 1-3 月期、県下の非製造業の業況判断 DI は、▲6.6 である。前期と比較し、17.7 ポイント回復した。全国平均の非製造業の業況判断 DI▲15.3 と比較しても、高い水準となっている。ただし、和歌山県の業況判断 DI は、変化が大きいのので引き続き、注視が必要である。

出所 中小企業景況調査(2018 年 1-3 月期)

<http://www.chusho.meti.go.jp/koukai/chousa/keikyo/151keikyo/151sokuhou.pdf>